

本郷界隈の階段と街を歩く

東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅 改札口 集合・出発 JR中央・総武線 水道橋駅で解散予定 約5.0km

1. 東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅

- 1954 (昭和29) 営団地下鉄丸ノ内線の駅が開業。初代駅舎はRC造平屋。
- 2000 (平成12) 都営地下鉄大江戸線の駅が開業。
- 2002 (平成14) 丸ノ内線の駅舎改築完成。

2. 本郷通り 千代田区神田錦町から北区滝野川に至る道の通称。本郷通りは江戸時代に整備された日光街道の脇街道で、徳川将軍家が日光東照宮へ社参する際に利用した街道。本郷追分（文京区弥生一丁目）で中山道から分岐し、幸手宿で日光街道と合流する。「日光御成道」や「岩槻街道」とも呼ばれる。

3. 本郷三丁目交差点・かねやす 交差点に面した雑貨店（廃業か?）。京都で口中医（歯医者）をしていた初代 兼康祐悦（かねやす ゆうえつ）が、江戸に移住。元禄年間に、歯磨き粉「乳香散」を製造販売して人気となり、小間物店「兼康」を開業した。1730（享保15）の大火からの復興の際、大岡忠相が「かねやす」のあたりから南側の建物には塗屋・土蔵造りを奨励し、茅葺き屋根を禁じ、瓦葺きを奨励した。当時、江戸の範囲は明確ではなかったが、このため「かねやす」が江戸の北限として認識されるようになり、「本郷も かねやすまでは江戸のうち」の川柳が生まれた。なお、1818（文政元）に江戸の範囲を示す朱引が定められたが、この頃には高密度市街地が拡大しており、朱引線は中山道板橋宿の北西側に引かれた。

4. 見返り坂・見送り坂 昔は現在の東大構内から小さな川が菊坂の谷へ流れており、ここに橋が架けられていた。太田道灌（1432－86）が江戸を治めていた頃は、その領地の境目だったと云われる。その頃、江戸を追放された罪人などはこの「流れの橋」で放たれ、南側の坂は親類縁者が見送ったため「見送り坂」、北側の坂は追放された人が振り返ったから「見返り坂」といわれた。

5. 菊坂 周辺一帯に菊の花を栽培する農家が多く、多くの菊畑があったことからと言われる。

『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.072－073

東大下水（ひがしおおげすい）**支流** 白山通り西片交差点の南側で東大下水に合流していた小川。旧加賀藩上屋敷（現 東京大学）から流れ出て菊坂の南側の裏道沿いを流れる川筋と、旧水戸藩中屋敷（現東京大学農学部）から清水橋下の道沿いに菊坂下方面へ至る流れがあった。

6. 金魚坂 坂沿いに金魚や錦鯉を扱う卸問屋があるため。この金魚商は350年前から営業しているそうだが、一帯は江戸期には御持組（将軍直属の弓・鉄砲隊）の大縄地でこの狭い道は記されていない。従ってこの坂が昔からあって、当時からこの名で呼ばれていたかどうかは分からない。2003年頃に喫茶店を併設して知られるようになった。

『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.076

7. 本郷通り西側の小階段

北 9段 通行不可（本郷5－25） 中 8段（本郷5－23） 南 9段（本郷5－23－6）

8. 東京大学本郷キャンパス

江戸時代、この地の大部分は加賀藩上屋敷だったが、明治維新に際しほとんどが新政府の官有地となった。

- 1876 (明治9) 加賀藩上屋敷の跡地に東京医学校（東大医学部の前身）が移転。
- 1877 (明治10) 法理文医の4学部からなる東京大学が発足。
- 1888 (明治21) 法医工文理の5分科大学（学部）の校舎からなる東京帝国大学の校地となった。
- 1889 (明治22) 隣接する現在の弥生地区に、第一高等中学校が一つ橋から移転、1894年に第一高等学校と改称。
- 1926 (昭和元) 前田家から屋敷や庭園を含む所有地を譲り受け、代わりに前田家は駒場の農学部農場の一部を譲渡され、同地に邸宅を移転（現・駒場公園）。
- 1935 (昭和10) 駒場の農学部が向ヶ丘の一高と校地を交換し本郷に移転。その後駒場の校地は戦後、教養学部が継承し、駒場キャンパスとなった。さらに1941（昭和16）に現在の浅野キャンパスを校地として取得。

関東大震災で従前の校舎の大部分が倒壊したため、内田祥三（工学部教授、後の総長）を中心に復興計画が立案され、現在に至るキャンパスの原型ができた。正門と安田講堂を結ぶ銀杏並木などもこのキャンパス計画によるもの。内田は本郷キャンパス他に類似の建造物を多く残し、それらは「内田ゴシック」と呼ばれている。最近は研究環境の向上等のため、新しい建物も増えている。既存の建物の外観は残したまま、内部だけを改装した建物も多い。

9. 東大本郷キャンパス内の主な登録有形文化財 ()内は建設年

正門・門衛所 (1912) 工学部列品館 (1925) 法学部3号館 (1927) 法文1号館 (1935) 法文2号館 (1938)
工学部1号館 (1935) 工学部2号館 (1924) 七徳堂 (1938、都選定歴史的建造物)

安田講堂 (大講堂) (1925、都選定歴史的建造物) 1968の大学紛争時に占拠されて閉鎖。1994に改修が完成して利用再開。
三四郎池 (育徳園心字池) 加賀藩前田家2代藩主の時代、将軍の御成りに際して築造され、4代藩主のときに完成。

10. 赤門 前田家上屋敷の御守殿門。1827 (文政10) に第13代前田斉泰が、第11代將軍徳川家斉の第21女、浴姫を迎える際に造営した。国重要文化財**11. 万定 (まんさだ) フルーツパーラー** 1914 (大正3) 創業、木造モルタル2階建て看板建築、1928 (昭和3) 建設

初代は定次郎と言ひ、果物屋の万惣で修業していた。そのため独立の際に万の字を貰ひ、屋号を『万定』とした。果物屋としての万定は閉店したが、本郷通り沿いに建物は残っている。フルーツパーラーも果物屋と同時期に開店。現在はカレーがオススメのカフェになっているが、これは昭和30年代に学生向けに考案されたもの。

12. 旧大西質店 建設年：明治末 出桁造り町屋**13. 森川町交差点** 『本郷森川町』木村伊兵衛撮影 (1953年4月7日) でよく知られる五叉路交差点。かつてはここに映世神社という神社があり、宮前広場と呼ばれたこの広場には高さ4mの石造鳥居があったという。戦後、神社は廃止され、鳥居は根津神社に保管されているとのこと。本郷6丁目は三河岡崎藩本多家の下屋敷があった場所で、映世神社はその藩祖で、映世公とも呼ばれた本多忠勝を祀ったもの。なお、写真中の交番は1976 (昭和51) に廃止されている。**14. 求道会館** 1915 (大正4) 完成 設計：武田五一 煉瓦造2F・一部RC造

基本的に寺院建築だが、教会のような外観。内部も教会や講堂のようなしつらえ。

復原工事：1996～2002年、一般公開日：毎月第4土曜日13時から、東京都有形文化財

求道学舎 1926 (大正15) 完成 RC造・3F 近角の子孫が、耐震補強をしたり内装をリフォームして賃貸。**近角常観** (ちかづみじょうかん) (1870～1941 (明治3～昭和16)) 浄土真宗大谷派の僧侶 (滋賀県生まれ)。欧州留学の体験をふまえ、青年学生と起居を共にして自らの信仰体験を語り継ぐ場として求道学舎を開き、1902 (明治35) から没するまでその経営に従事。広く公衆に向けて信仰を説く場として求道会館を建立。後に求道学舎の建て替えも武田に依頼し、近代建築による欧州形式の寄宿舎を作った。常観が没した後は弟の近角常音がその活動を受け継いだ。常音が1953 (昭和28) に亡くなったあと会館は閉鎖されていた。都の有形文化財指定を受けて復原され、再度公開された。**武田五一** (1872-1938 (明治5-昭和13)) アーツアンドクラフトやゼセッション運動の日本への紹介者。京都大学建築学科の創設者。建築家としての実践活動の他、教育活動や文化財修復など多方面で活躍した。**本郷館** (解体) 本郷6-20にあった3階建ての大型木造アパート・学生下宿。木造3F、基礎は煉瓦、1905 (明治38) 建設。70室前後で中庭があり、都内の昔の学生下宿として貴重といわれたが、老朽化のため2011 (平成23) に解体された。**15. 鳳明館森川別館** 1953 (昭和28) 木造・2F、一部RC造・4F・B1F 33室**16. 清水橋** (から橋・伽羅橋) 本郷と西片の高台の間をつなぐ陸橋。1880 (明治13) 初代の橋が木橋で開通。谷地に清水が流れていたことから清水橋となったが、明治時代後期には道の端に狭い流れが残るだけになり、から橋 (空橋、伽羅橋) ともよばれた。1906 (明治39) 頃には武田五一の設計による二代目の木橋に架け替えられた。西片の阿部家では、阿部伯爵が夜遅く清水橋を渡って帰宅すると、木橋を渡る馬車の音が西片町に響き、それを合図に皆が玄関に出たという。

樋口一葉は、上野の図書館からの帰りに空橋の下を通った際、書生らしき人物に冷やかされたことを日記に書き残した。

また佐佐木信綱 (1872～1963) は、1912～44 (明治45～昭和19) まで西片町に住んでおり次のような歌を詠んでいる。

から橋の上ゆ眺むればけぶりの色 木立の色も秋としなれり

三代目の橋は、1924 (大正13) に撮影されたと思しき写真が残されているのみで、設計図等の資料が残っていないため、架橋年や構造等の詳細については不明。四代目はRC造の橋で、1936・37 (昭和11・12) 頃に架橋されたと考えられている。

四代目の橋が老朽化したため、2019 (平成31) 2月に五代目の橋に架け替えられた。

清水橋東北側の階段 34段 求道学舎西側の崖下から清水橋東詰へ、南向きに上る。**清水橋詰西側の階段** 48段 言問通りから通り沿いに北向きに上り、清水橋西詰に至る。緩やかな道でスロープもあり、自転車での通行も可能。ステップの刻みが細かく蹴上が小さいため段数が多い。**17. 清水橋南側の階段** 28段 (下から19・9段)

- 18. 徳田秋声旧宅** 金沢生まれの小説家、徳田秋声（1871～1943（明治4～昭和18））は、1903（明治36）表町に一戸を構え、1905（明治38）にこの森川町に移り、37年にわたって居住した。秋声は没するまでこの家に居住し、代表作はみなこの家で書かれた。没後、長男の小説家一穂が引き続いて住んだ。建設年：1905（明治38）頃、東京都指定旧跡
- 19. 鳳明館本館** 木造2階建の近代和風建築。明治30年代に下宿屋として建設されたが、昭和初期に下宿屋兼旅館に改造し、戦時中は軍需省に貸していた。戦後すぐ、1945（昭和20）に旅館建築に模様替えした。各室毎に異なった銘木が使われている。下宿・旅館が多かった本郷地区の歴史的な景観を伝える。25室 登録有形文化財
- 鳳明館台町別館** 戦後、本館の営業が好調だったことから、1947（昭和22）に住宅として建てられた。天海祐希の祖父が建設に携わり立派な建物を建てたところ、常連から宿屋の親父が客よりも良いところに住むとはと言われ、急遽半分を旅館に改装したという。近年はネット予約で外国人客も多い。木造2F、一部S造3F・B1F 31室
- 戦後期には本郷界限には40軒近くの旅館があり、修学旅行の宿として人気で、観光バスが本郷通りに並んだりもしたが、現在、界限の木造旅館は、鳳明館（本館・台町別館・森川別館）、更新館（向丘2-1）程度。
- 20. 胸突坂** 鳳明館本館北側。坂名は急坂であることに由来。文京区内には3ヶ所の胸突坂がある。江戸期にはこちらが菊坂と呼ばれていた。『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.072-073
- 21. 旧伊勢屋質店** 1860（万延元）創業、1982（昭和57）廃業。樋口一葉は、近くの旧菊坂町の貸家に母と妹と住んでから、度々この伊勢屋に通い、苦しい家計をやりくりした。終焉の地（現・文京区西片1-17-18）に移り住んでからも伊勢屋との縁は続いたという。見世 1907（明治40）築 木造2階 座敷棟 1890（明治23）築 木造平屋
- 土蔵** 明治初期に現在の足立区鹿浜に建てられた。2階建て 1887（明治20）本郷に移築
- 22. 菊坂から下る小階段** 4段 段々の途中にコンクリート製の消火栓柱がある。
- 23. 右京山・旧真砂町住宅・清和公園**
- 右京山北側の小階段** 5段 東大下水支流の暗渠道から上る。（本郷 4-23）
- 右京山**（うきょうやま） 鎧坂西側の岬状の高台の旧称。江戸期に群馬高崎藩主の松平右京亮の中屋敷が置かれていたことから、その名が付けられた。明治維新後は放置されていたという。
- 旧真砂町住宅・清和公園** 東京市は1923～25（大正12～14）に、この右京山の辺りを一戸建て住宅地として開発した。中心に清和公園の緑地を設け、公園を囲んで46棟、75戸の住宅が建てられた。また1930（昭和5）には清和寮というRC・4Fの独身男性用のアパートが清和公園向かいに建てられた。住宅の多くは戦災を免れたが、戦後、次第に建て替えられて、清和寮も1995（平成7）に解体。現在は1923（大正12）築のマンサード屋根の木造2階建て1戸と清和公園のみが残存している。
- 清和公園内の階段** 32段（下から22・10段）
- 清和公園南側の階段** 19段（下から10・9段）（本郷 4-19と22の間）
- 24. 本郷真砂南地区市街地再開発** 2021年9月着工、2024年3月竣工見込、とされていたが遅延しており未定。
- 25. 東大下水**（ひがしおおげすい） 白山通りのある谷、通りの東側を流れていた川。なお、白山通りの西側には小石川・谷端川（別名：西大下水）が流れていた。
- 26. 文京ガーデン ザ サウス** 共同住宅28戸・事務所・店舗 RC・一部S造 13F・B1F 高さ約50m 2019年完成
- 27. パークコート文京小石川 ザ タワー** 共同住宅（577戸（販売390戸、事業協力者187戸））、事務所、店舗 RC・SRC造 40F・B2F 高さ約140.4m・最高約148.5m 2021年竣工
- 28. 文京ガーデン ゲートタワー** 事務所・共同住宅157戸（ワンルーム43戸）・店舗・変電所 S・SRC・RC・CFT造 23F・B2F 最高高さ約110m 2021年完成
- 29. 文京シビックセンター** SRC 28F・B3F 高さ145.7m 設計：日建設計 1994（平成6）完成
- 30. 東富坂**（ひがしとみさか）・**真砂坂**（まさござか） 現在の東富坂は、本郷3丁目から伝通院まで、路面電車（市電）を通した際に、旧東富坂上から春日町交差点まで新規に通された緩やかな坂。市電は1908（明治41）に開通した。
- 春日通り** 豊島区池袋から文京区の大塚3丁目、小石川、春日、本郷、湯島を経て、台東区の上野を通り、厩橋で隅田川を渡り、墨田区へ至る道。

31. 旧東富坂 (きゅうひがしとみさか) 昔、文京区役所があるあたりの低地を二ヶ谷といい、この谷を挟んで東西に二つの急な坂道があったが、周辺に木が生い茂り、鳶がたくさん集ってくるのでこれが「鳶坂」と言われた。二ヶ谷を飛び越えて向き合っているのが「飛び坂」といわれたとも。この「トビサカ」がいつの頃からか、富坂となったという。庶民が縁起をかついで富に読み替えたのだらうと言われる。明治後期に東富坂(真砂坂)が造られたため、旧東富坂となった。

32. 矢印形の階段 33段(下16・上左右17段) 幅 下部3.0/上部2.0m 高低差4.8m 蹴上15cm 踏み面30cm 傾斜27°
『東京の階段』p.54 平面型が矢印形になっているのは屋外の階段としては珍しい。

33. 財務省真砂住宅南側の長い階段 35段(下から10・9・16段) 下部19段はやや急だが、上部16段は緩やか。上っていくと途中でかなり傾斜が変化する。下部の幅は1994年には2m程度だったが、2000～03年頃に北側半分が拡幅され、更に2004～06年頃に南側半分が拡幅されて現在のようになった。

尚美学園本部そばの階段 16段(下から9・7段) 2004～06年頃に東側のマンションが建設され、これに伴い整備されてマンションの敷地内を通り抜けるような形にもなった。階段上部に数本あった桜は1本になった。

34. 金田一京助・春彦 旧居跡 言語学者、金田一京助は1882(明治15)岩手県盛岡生まれ。東京大学言語学科卒業後、1942(昭和17)から同大学で教授として教鞭を執り、のちに国学院大学教授となった。盛岡中学の2年下級にいた石川啄木は、中学を卒業後、盛岡から上京して京助を訪ね、急速に文学への関心を高めた。京助は啄木の良き理解者で、金銭的にも精神的にも援助したという。また、金田一京助の長男、春彦(国語学者)は、1913(大正2)ここで生まれた。1920(大正9)からの5年間、近くの真砂小学校(現本郷小学校)に在籍。東京大学国文学科を卒業後、名古屋大学、東京外国語大学、上智大学などで教鞭を執った。

鐙坂(あぶみざか) 名の由来は「鐙の製作者の子孫が住んでいたから」とか「形が鐙に似ていたから」といわれる。
『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.074-075

35. 樋口一葉の菊坂旧居跡 樋口一葉(1872～96(明治5～29))は、1890(明治23)に旧菊坂町70番地(路地左奥)に母妹の3人で移り住んだ。1892年5月には、この路地の反対側の下道に面した所(菊坂町69番地)に居を移した。ここでの2年11ヵ月(18～21歳)の一葉は、3人家族の戸主として、他人の洗濯や針仕事で生計を立てていたという。

一葉の路地奥の階段 14段 幅1.7m 長さ4.3m 高低差2.8m 蹴上20cm 踏み面31cm 傾斜33°(本郷4-31と32の間)
『東京の階段』pp.52-53 **一葉の路地そばの狭い階段** 16段(本郷4-31)

菊水湯 明治中期の創業。1962(昭和37)に改築された建物で営業していたが、2015年9月末に廃業して、マンション「あぶみぞん本郷」に建て替えられた。

36. 菊坂わき・下見板町屋わきの階段(本郷4-29と33の間) 『東京の階段』p.51

14段(下から5・6・3段) 幅3.7m 長さ7.7m 高低差2.6m 蹴上12～20cm 踏み面35～62cm 傾斜19°

菊坂から下る階段 17段(下から5・6・4・2段) 建物の間でかなり狭い。(本郷4-33-11と12の間)

37. 梨木坂(なしのき坂) 坂名の由来には、かつて梨の大木があったためという説と、周辺に多くあった菊畑がこの坂あたりにはないため「菊なし坂」と呼ばれ、それが転じて「なし坂」となったという説がある。1884(明治17)測量の陸軍参謀本部製作地図には「奈須坂」と記されている。

38. 長泉寺参道 19段(下から4・9・6段) 門を入ってから右へ境内の通り抜けが可能。(本郷5-5と6の間)

宮沢賢治旧居跡 宮沢賢治(1896～1933(明治29～昭和8))は詩人、童話作家で花巻市生まれ。1921(大正10)に上京し、本郷菊坂町75番地稲垣方2階の6畳に間借りしていた(建物は平成2年に建て替え・場所は階段下正面)。東京大学赤門前の分信社(現、大学堂メガネ店)で謄写版刷りの筆耕や校正などで自活し、昼休みには街頭で日蓮宗の布教活動をしていた。これらと平行して童話・詩歌の創作に専念し、1日300枚の割合で原稿を書いたといわれる。「どんぐりと山猫」「かしわばやし夜の夜」などの主な作品はここで書かれた。

宮澤賢治旧居跡北側の階段 18段(本郷4-33と34の間)

菊坂南側の小径から菊坂へ上る。中程から下側で徐々に幅が広がっており、またステップがやや傾斜している。

39. 本妙寺坂 (ほんみょうじざか) この坂を下ってまた上った先に本妙寺があったことから。

本妙寺は明暦の大火(振袖火事・1657(明暦3)、当時の江戸の5割以上が焼失)の火元として有名。振袖を受け継いだ娘が連続して亡くなったため、供養のために燃やしたところ延焼したと云われる。だが一説には、隣接地にあった老中阿部氏の屋敷からの出火の罪を被ったとの異説もある。本妙寺は火元としての処分を受けていないだけでなく、阿部家からはその後260年余にわたり関東大震災の年まで、明暦の大火の供養料が本妙寺に毎年奉納されていた。大火の後に幕府が犠牲者のために創建した両国の回向院へ奉納すべき供養料を、火元とされた本妙寺に納め続けたのは、老中の阿部家を失火の責任から救ったお礼と解するのが妥当だと、本妙寺はHPなどにも記している。1910(明治43)に豊島区巣鴨5丁目に移転。

40. 炭団坂 坂名の由来としては、炭団を売る店が多かったからというのと、急坂で転げ落ちて炭団のようになる人が多かったから、という二説がある。明治以降の改修により坂道は段坂にされた。現在の階段は1989(平成元)に改修されたもの。

53段(下から3・11・6・14・8・11段) 幅3.2m 長さ30m 高低差8m 蹴上15cm 踏み面37cm 傾斜22°

『東京の階段』p.140 『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.074-075

坪内逍遙旧居・常盤会跡 坪内逍遙(1859~1935(安政6~昭和10))は、1884(明治17)、この地に住み「小説神髓」を発表。逍遙が近所に越した後、1887(明治20)には旧伊予藩主久松氏の育英事業として「常盤会」という寄宿舎になった。

正岡子規は1888(明治21)から3年余りここに入り、河東碧梧桐(俳人)も寄宿。建物は1989(平成元)に解体。

41. 諸井邸 (もろい邸) 1906(明治39)竣工 秩父セメントを創設した諸井恒平が建てた木造住宅。ほとんど当初のままの状態で現存し、今も後継者により住み続けられている。北と西に残る煉瓦塀は恒平が勤めた日本煉瓦製造によるもの。

文京ふるさと歴史館 文京区の歴史について展示する資料館。模型や図面の展示有り。1991(平成3)開館

42. 弓町本郷教会 RC・4F 1926(大正15)竣工 設計:中村鎮、鎮ブロック造という、中空部のあるコンクリートブロックと柱梁の鉄筋コンクリートを組み合わせた形式。様々なコンクリート造が試みられていた時期のもの。

43. パークハウス楠郷臺 (なんごうだい) 1999(平成11)完成。旧邸宅内にあった樹齢600年以上の大クスノキが保全されて道路沿いに残っている。マンションとクスノキがある土地は、江戸時代は楠木正成の末裔にあたる旗本、甲斐庄氏(かいのしょうし)の屋敷だった。大正時代に駒澤銀行頭取の駒澤傳吉が土地を購入して木造2階の西洋館を建て、その後、1942(昭和17)に土地・建物を中山氏が購入。二代目の中山弘二氏は1980(昭和55)に自宅の一部を改築して、フランス料理レストラン楠亭を開店。楠亭はマンションになった後も1階で営業していたが、2006年からは「PAISIBLE」というフランス料理店が店舗を借りて営業している。

44. 本郷ハウス SRC造 16F 1970(昭和45)完成。途中から両サイドが張り出した異形の高層マンション。

45. 旅館 朝陽館 跡 1904(明治37)創業。2016(平成28)廃業。当初は下宿屋と兼業で戦後、旅館になった。増改築やりフォームはしていたが、元の建物は戦災でも被災せず、昔のままだった。昭和27年頃には手塚治虫が缶詰めになったりしていたという。跡地にはザ・パークハウス本郷(14F・92戸)が2018年11月に竣工。

46. 新坂 (しんざか)・**外記坂** (げきざか) 35段(下から11・3・12・1・7・1段) 新しく開かれた坂であるためだが坂自体は江戸時代からあった。別名の外記坂は、坂上の北側に内藤外記という旗本の屋敷があったことから。

47. 新吉岐坂 (しんいきざか) 関東大震災後の帝都復興計画によって新しく開設された坂。壱岐坂と交差することから。

48. 壱岐坂 (いきざか) 江戸時代初期の元和年間(1615~23)の頃、この坂の右の方に小笠原壱岐守の下屋敷があったことからといわれる。

49. 東洋学園大学 1926(大正15)、東洋思想学者で実業家の宇田尚により、本郷区元町の現在地に設立された旧制東洋女子歯科医学専門学校が前身。類似名の東洋大学や東洋英和女学院大学とは異なる。第二次大戦の戦災で被災。

1950(昭和25) 学制改革時、女子歯科医専の歯科大学への改組が認められなかったため、閉鎖となる。

東洋女子短期大学が設立される。英語・英文学(英語科教員養成)へ転換。

1967(昭和42) 千葉県流山市に流山キャンパス開設。

1992(平成4) 東洋学園大学開学。2006(平成18) 東洋女子短期大学終了。2007(平成19) 本郷新1号館竣工。

2013年度~ グローバル・コミュニケーション学部、現代経営学部、人間科学部の3学部体制。

- 50. 桜蔭学園** 東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）の同窓会「桜蔭会」により設立された、私立の中高一貫制女子校。女子学院・雙葉中学と共に女子御三家と言われる。1号館：1931（昭和6） RC・3F スパニッシュスタイル。
- 51. 忠弥坂（ちゅうやざか）** 坂上あたりに丸橋忠弥の槍の道場があり、忠弥が慶安事件で捕えられた場所にも近いことから。慶安事件（由井正雪の乱）は、1651（慶安4）に丸橋忠弥が由井正雪と共に江戸幕府の転覆を企てたが失敗に終わった事件。
- 宝生能楽堂（ほうしょう能楽堂）** 能楽の一流派、宝生流の中心拠点。最初、1913（大正2）に神田猿樂町に創建されたが、関東大震災で焼失。その後、現在地である松平頼寿伯旧邸跡地が提供され、1928（昭和3）に再建されたが、戦災でこれも焼失。戦後、1950（昭和25）に「水道橋能楽堂」として再建。現在の建物は1978（昭和53）完成。
- 52. 旧東京市元町尋常小学校（旧文京区立元町小学校）** 1927（昭和2） 震災復興小学校として建設された。RC・3F。
元町小学校は真砂小学校と統合されて1998年3月末で無くなったが、その後、仮校舎などとして使われ続けた。その後、コの字型の校舎のうち東側を保全、北側と西側は建て替えて活用することになり、2024年度末までの予定で修復保全と建て替えが行われている。東側校舎は医療的ケアが必要な児童の支援施設等、歴史展示・地域交流スペース、カフェ、新設のL字型建物は多目的室、地域団体活動室、認定こども園、難病相談・支援センター等として活用する予定。
- 53. 元町公園** 震災復興小公園として1930（昭和5）に、旧元町小学校に隣接する敷地に開園。災害時に避難民を火の手から守る防火樹林として、スダジイ・ケヤキ・イチョウ・スズカケノキ・アオギリなどの大木が植樹されている。
関東大震災（1923（大正12））の後、東京市は帝都復興計画の中で、震災復興公園（大公園3ヶ所（墨田公園、浜町公園、錦糸公園）、小公園52ヶ所）の設置を計画した。小公園は、地域住民の利用、隣接する小学校の校庭の延長となる教材園及び、運動補助場として、さらに災害時の避難場所とする目的で計画された。元町公園では、カスケード（階段状の水路）、パーゴラ、2連式のすべり台、トイレなど、現代の小公園にも通ずるデザインがなされている。
第二次世界大戦中には金属類の供出により、鳥小屋、門扉などが無くなり、開園当初は鋳鉄製だったといわれる外柵も、コンクリートに替えられた。しかし昭和50年代には歴史的価値が見直され、公園の復元的改修が行われた。その際、外柵の鋳物での復原はできなかったが、角パイプでデザイン復原がされた。震災復興小学校と震災復興小公園がセットになって残っている例はほとんどなくなっており、元町公園は現在では、東京の近代公園を知る上で貴重なものとなっている。2006（平成18）には文京区により区立体育館の移設が検討され、都市計画変更により公園施設群が解体撤去される可能性があったが、都市計画審議会が慎重な審議を求め差し戻しを行い、また区長が退任・交替したため公園が残された。
その後、旧元町小学校の再整備と合わせて元町公園も整備されることになり、2023年初めから2024年度末までの予定で、滑り台の修復保全、遊具等の新設が行われ、カスケードと壁泉は水を流すように改修される予定。
- 54. 建部坂（たけべざか）・初音坂（はつねざか）** 現在の元町公園のあたりに建部氏の邸宅があったことから。神田川を望む庭は景色が良く、下は藪になっており、そこで鶯が早くから鳴くことから、初音の森と呼ばれるようになったことから、初音坂の別名が付いた。『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』p.077
- 55. 富士見坂** 坂から富士山がよく見えたことから。坂の方向に富士山が見えていたわけではないため、現在は富士を望むことは出来ない。
- 56. お茶の水坂** 御茶の水と呼ばれた湧き水が付近にあったことから。
- 57. 昭和第一高等学校** RC・4F 1931（昭和6）
1929（昭和4） 昭和第一商業学校として開校
1931（昭和6） 現在の校舎が完成。
1937（昭和12） 北側に増築（現在はレンガ色のタイルが張られているが、当初はRC+モルタルだったらしい。）
1948（昭和23） 昭和第一高等学校となる。
- 58. 都立工芸高校** アートクラフト、マシンクラフト、インテリア、グラフィックアーツ、デザインの5科を開講。
1907（明治40） 東京府立工芸学校として中央区築地で開校
1923（大正12） 関東大震災により校舎焼失
1927（昭和2） 現在地に移転
1943（昭和18） 東京府から東京都への都制施行により「東京都立工芸高等学校」に改称
1997（平成9） 現在の校舎が完成。

59. 水道橋駅 駅名の由来は、神田上水の懸樋（かけひ）が付近の神田川に架けられていたことに因む。

1906（明治39） 9月、甲武鉄道の駅として開業。10月、甲武鉄道が国有化

1972（昭和47） 都営地下鉄6号線の水道橋駅が開業

1978（昭和53） 都営地下鉄6号線が都営三田線に改称

水道橋 神田上水は江戸時代に造られた上水道で、文京区関口付近で神田川から分水して、現在の水道1・2丁目、小石川後楽園内を通り、この懸樋を渡って神田駿河台方面へ飲料水を供給していたもの。懸樋は1901（明治34）に撤去された。

【その他】

60. 新坂（しんざか） 坂上の台地にあった旧福山藩主の阿部屋敷に通じる新しく開かれた坂であったことから。福山藩にちなんで、福山坂ともいわれた。（西片1-13・2-6）

61. 石坂（いしざか） 言問通りから西片1丁目の高台へカーブして上るやや急な坂。坂名の由来詳細は不明。

石坂西下の小階段 6段 新発田育英会学生寮南側（西片1-15）

石坂わきの極小階段 3段（西片1-3）

石坂東側の階段 19段 昔は大谷石造だった。（西片1-3）

62. 菊富士ホテル跡 1897（明治30）に下宿屋・菊富士楼として開業。1914（大正3）に五層楼を新築。菊富士ホテルと改名。大正から昭和10年代にかけて、多くの文学者、学者、芸術家、思想家たちが滞在し、ここを舞台に数々のエピソードを残した。主な止宿者は、石川 淳、宇野浩二、宇野千代、尾崎士郎、坂口安吾、高田 保、谷崎潤一郎、直木三十五、広津和郎、正宗白鳥、真山青果、竹久夢二、三木 清、中條百合子、湯浅芳子、大杉 栄、月形龍之介、高柳健次郎 など。しかし1945（昭和20）3月10日の東京大空襲により焼失。50年の歴史を閉じた。

63. 啄木ゆかりの赤心館跡 石川啄木（1886～1912（明治19～45））は、22歳の明治41年5月に3度目の上京をし、金田一京助を頼って赤心館に下宿し、執筆に励んだ。ここでわずか4ヶ月間に『菊地君』『母』『天鷲絨』など、小説5編を執筆。しかし作品に買い手がつかず、失意と苦悩の日が続いた。一方で数多くの優れた短歌を残した。収入がなく下宿代もこと欠き、金田一京助の援助で近くの下宿、蓋平館別荘に移った。

たはむれに母を背負ひてそのあまり 軽きに泣きて 三步あゆまず（赤心館時代の作品）

64. 啄木・蓋平館別荘跡 貧窮に喘ぐ啄木を救うため、愛蔵の書籍までも処分した金田一京助の厚意により、啄木は本郷区森川町1番地新坂359（現・文京区本郷6-10-12）の蓋平館別荘に移った。この地では『鳥影』を執筆するとともに、文芸雑誌『スバル』の発行名義人となった。北原白秋や木下杢太郎、吉井勇などが出入りしたという。その後、朝日新聞社に定職を得て、家族とともに本郷の喜之床（愛知県犬山市の明治村に移築）の2階に移り住んだ。蓋平館は昭和10年頃、太栄館と名称が変わった。建物は1954（昭和29）に焼失。現在は旅館太栄館。

新坂 区内にある新坂と呼ばれる6つの坂の一つ。名前は新坂だが、江戸時代にひらかれた古い坂。（本郷5-32・6-11）

65. 興安寺（真宗大谷派） 1617（元和3）に神田に創建。1710（宝永7）に現在地へ移転。

昌清寺（浄土宗） 1615（元和元）に徳川忠長（家光の弟）の母お江が、自害した忠長の菩提を弔うため、忠長の乳母お清の方（昌清院電心響妙安大姉）を開基として創建。

66. 本郷給水所公苑 1892（明治25）、東京市水道局（現東京都水道局）がここに給水場を建設。1898（明治31）に配水池が造られ、1974（昭和49）に配水池の拡張が完了。その後、配水池の上に文京区が公苑を建設し、1976（昭和51）に開園。苑内には神田上水の石桶が保存展示されている。

東京都水道歴史館 1995（平成7）開館。東京の水道400年の歴史を江戸時代と明治時代以降に分けて実物大模型や歴史資料、映像を用いて紹介している。

【町名など】

本郷 湯島郷の中に集落ができたことに由来し、湯島の中心地だったために湯島本郷と呼ばれていたのが、室町～戦国時代に本郷となった。1878（明治11）、東京15区の一つとして本郷区が成立。本郷区は1947（昭和22）に小石川区と合併し文京区となった。

本郷界限では、1965（昭和40）に住居表示を実施。本郷一～六丁目・元町一～二丁目・弓町一～二丁目・真砂町・本富士町・菊坂町・春木町一～三丁目・金助町・台町・湯島六丁目の全部に、湯島五丁目と森川町のほぼ全部・春日町二丁目・田町・龍岡町・湯島両門町の各一部をあわせた町域を、一～七丁目に分けて、現行の「本郷」となった。

本郷には、明治から昭和にかけて、夏目漱石、坪内逍遙、樋口一葉、二葉亭四迷、正岡子規、宮沢賢治、川端康成、石川啄木など多くの文人が居を構えた。また、本郷三丁目交差点角の「かねやす」は、1735年に歯科医、兼康祐悦が乳香散という歯磨き粉を売る店を出し、小間物屋として現在まで営業を続けている。1730（享保15）の大火の後、大岡忠相がここ以南の江戸城に近い側を土蔵造りの塗屋にすることを命じたため、「本郷もかねやすまでは江戸のうち」という川柳が残されている。かねやすの角は当時の江戸町奉行所の管轄範囲の北限で、ここまでがいわゆる「江戸」だった。

本郷界限の旧町名

元町（もとまち） 元禄9（1696）に町家が開かれ、界限で最も古い方だったためという。

弓町（ゆみちょう） 新坂（外記坂）の周辺は、もとは御弓町、後には弓町と呼ばれ、慶長・元和の頃（1600年頃）には与力同心六組の屋敷がおかれ、的場で弓の稽古が行われていた。

真砂町（まさごちょう） 浜の真砂の限りないように町の繁栄を願って1869（明治2）に命名されたといわれる。

本富士町（もとふじちょう） 本富士は元富士とも書き、駒込富士とも呼ばれた富士浅間社（富士神社：本駒込5-7）が以前あったことに由来する。富士神社は1573（天正元）に、現在の東京大学の場所に勧請された。加賀前田氏が1628（寛永5）に上屋敷を賜ったが、その際、一時的にこの本富士町に神社が移され、その後、本駒込の現在地に移転した。

菊坂町（きくざかちょう） →33.菊坂に由来 周辺一帯に菊の花を栽培する農家が多く、多くの菊畑があったことから。

台町（だいまち） 文字通り高台の町であることから。

森川町（もりかわちょう） 江戸時代初期、幕府は江戸防備のため、中山道と日光例幣使街道（岩槻街道（本郷通り））の分岐点である駒込追分に、旗本森川金右衛門氏信を配し屋敷地を与えた。また本郷6丁目から追分までの間に大縄地を付し、御先手組与力・同心を常駐させた。森川の姓が多かったので宿場ではないが森川宿と呼ばれ、それが町名となった。

春木町（はるきちょう） 伊勢神宮の祈祷師・春木太夫が住んでいたため。

西片 備後福山藩主の阿部家は、江戸期には神田淡路町2丁目に上屋敷を構え、また西片のほとんどを中屋敷としていた。しかし維新後、1870（明治3）に上屋敷を政府に上地。翌年（明治4）には中屋敷の内、払い下げを受けた1万坪を除いた残りを上地した。新政府は上地公取した土地に産業振興政策もあって茶の木と桑の植栽を奨励した。阿部屋敷もその大部分を養蚕事業にあてるべく桑畑にし、1872（明治5）には現在の文京区立誠之小学校のあたりで養蚕室を経営した。また貸家業も兼業し、「駒込西片町九番地の邸の両脇の貸長屋四軒を商店を開く希望者に貸し与える事・・・。」という貸家許可願を東京府へ届出た。後には本邸敷地6千坪を残し、他の大部分を分譲。これがこの界限が住宅街化していく契機となった。阿部家は現在も西片1丁目（No.59の場所）に居住。西片の町名由来は、中山道の西側の町であることから。また、中山道東側の向丘1丁目界限は、1964年までは駒込東片町だった。（参考「文京区史跡散歩」江幡潤、学生社）

参考文献・参考サイト

『江戸東京坂道事典』石川悌二、新人物往来社、1998 『今昔東京の坂』岡崎清記、日本交通社出版事業局、1981

『東京の階段』松本泰生、日本文芸社、2007 『川の地図辞典—江戸・東京23区編』菅原健二、之潮、2007

『東京古道散歩』荻窪 圭、中経文庫、2010 『甦った東京 戦災復興区画整理事業誌』東京都

『凹凸を楽しむ 東京「スリバチ」地形散歩』皆川典久、洋泉社、2012 『同2』皆川典久、洋泉社、2013

『ぶんぎょうの坂道』改訂版、文京ふるさと歴史館、2008 『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』松本泰生、洋泉社、2017

東京23区の坂道 <http://www.tokyosaka.sakura.ne.jp/index.htm> 坂学会 <http://www.sakagakkai.org/>

東京大学Website 他、Wikipedia